

弘道館の震災と復興

弘道館では、建物の内壁外壁の剥離・落下・ひび割れ、建具の損傷、瓦のずれや落下、弘道館記碑の一部崩落など、甚大な被害が生じました。

弘道館は明治維新の戦災、水戸の空襲などの災害を乗り越えて、今日に引き継がれています。この文化財を大事に残そうと、弘道館の復旧工事は、県有部分は茨城県により平成24年4月より開始され、重要文化財を含む国有部分は文化庁により平成24年12月より開始されました。

正庁・至善堂の復旧工事

復旧工事中の正庁玄関



平成26年3月27日には弘道館が全面復旧し記念式典が開催されました。正庁・至善堂などの建物の復旧工事では屋根の全ての瓦が降ろされて柱の傾きが正されました。また瓦は1枚1枚ひび割れがないか調べられ、選別されました。2万5千枚の瓦のうち、創建時の瓦は6%、昭和の修理瓦は28%、今回の復旧での瓦は66%となりました。

重要文化財である正庁・至善堂をはじめとする建造物の復旧工事では、創建時の工法を踏まえた伝統的な技法で実施されました。加えて文化財を未来へと引き継ぐための耐震補強など新たな技術が駆使されました。

彫刻漆喰の復旧



壁の修復



壁紙の張り替え



屋根裏の耐震補強



床下の耐震補強



藩主が滞在する正庁・至善堂の2間で二重床構造が確認されました。

弘道館の震災と復興



築地塀 (瓦)



正庁 (玄関)



至善堂



弘道館記の碑



学生警鐘



孔子廟戟門



日本遺産認定の意味

旧弘道館と常磐公園（偕楽園）、旧水戸彰考館跡、日新塾跡、大日本史は、最初の日本遺産になりました。一緒に認定された足利学校跡（栃木県足利市）、咸宜園跡（大分県日田市）、旧閑谷学校（岡山県備前市）とともに、「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」の一つとして登録されたのです。

日本遺産とは文部科学省文化庁が認定する制度で平成27年（2015）からはじまりました。日本遺産は各地にあるいろいろな文化財をまとめて、あるストーリーによってパッケージ化して認定されます。「近世日本の教育遺産群」は、日本の近代化の基礎となった武士から民衆に至る高い教養と倫理感を培うことに成功したというストーリーが認められました。

